信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。
（会則第3条）

法政大學 社会学部 同窓会報

Vol.54

法政大学社会学部同窓会
発行人　髙橋 敏（同窓会会長）
編集人　吉川新吾（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学4号館社会学部A棟11階
TEL・FAX　042-783-2421
http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140-1-63762

社会学部同窓会３０年を４人の方に振り返っていただきました。

社会学部同窓会の30年を振り返る

座談会

文系初の学部同窓会の先駆を誇りに、さらなる前進を

６月８日開催の「30周年記念総会」を前に、同窓会役員会では、同窓会の歴史や経緯に詳しい方々を招いて、社会学部同窓会の歴史を振り返り今後を展望する「座談会」を４月８日、市ヶ谷キャンパスのボアソナードタワー内の校友会談話室で行いました。　（文・構成　山田幹夫）

◆座談会出席者

＊法政大学名誉教授　金山 行孝　氏
＊元事務局長　近藤 栄一　氏（1961年卒、笠原千鶴ゼミ）
＊副会長　北條 利男　氏（60年卒、秋田成就ゼミ）
＊進行＝髙橋 敏　会長（78年卒、金山行孝ゼミ）

髙橋敏会長／まずは皆さまの自己紹介をお願い致します。

近藤栄一氏／1961年卒ですから、「60年安保」を体験している世代です。笠原ゼミでした。

卒業後に民間会社に就職しましたが、今では想像できない話ですが、社会学部というと社会主義を連想するのか、就職活動は大変でした。大学の求人掲示には「社会学部、文学部を除く」と。会社の人が家まで来て、本箱を見ていくのです。我が家には「資本論」などがありましたけどね（笑）。

同窓会では事務局長を10年務めました。

北條利男氏／私は60年卒。昨年亡くなられた秋田成就先生のゼミでタクシーの労働状態などを秋田先生から教えてもらいました。

60年安保の時には卒業しており、どちらかと言うとノンポリでした。学部の勉強をせずに文化的なことを喫茶店で話すことは楽しかったです。今も絵に親しんでおり、展示会に出品も。

金山名誉教授

金山行孝氏／法政大学との関わりは1950年代から社会学部と工学部があった麻布校舎で、生物学の実験助手が必要ということで、53年5月から週1回通い始めてからです。55年館が竣工し社会学部が市ヶ谷に移転し58年館もでき、はとバスのガイドさんが「ネオン輝く法政」と紹介したというエピソードがあります。

60年安保の頃は、学生もとことん話すという気風があり、70年安保になると、オレの言うことを聞かないのはお前が悪いという雰囲気が強くなりましたね。

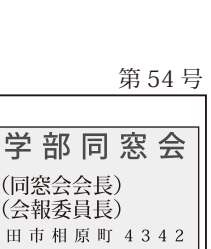
社会学部の多摩キャンパスへの移転時は学部長でした。ゼミは「環境論」という名前で10年くらいのつもりでしたが、定年まで続けることになりました。熱心な学生が多かったです。

★同窓会との関わりや、エピソードなど

髙橋／社会学部同窓会設立は、84年に多摩キャンパスに社会学部棟が竣工し、86年3月の学部35周年の集いで呼びかけがあり、設立準備会を経て89年3月25日に結成総会です。同窓会報の創刊号も同年9月に発行。

私は近藤さんらとホームページ作りをしましたが、同窓会との関わりや当時の様子などをお話し下さい。

近藤／同窓会は、大学や学部を振り返るアルバムを作ろうということが発端でした。初代会長の黒坂一久氏から作業を手伝ってと迫られたことを思い出します。


近藤氏

同窓会作りは増島宏先生が自分のゼミの黒坂氏に白羽の矢を立てたということを聞いていますが、黒坂会長、大矢事務局長の体制でスタートしました。

同窓生の名簿作りも始めたのですが、各ゼミのOB名簿を頼ったものの、氏名、住所や就職先に空欄が多く、苦労しました。

北條／私は設立総会には出席していませんが、同窓会スタート時期の大学OBは仕事の現役が多く、会社の役員の肩書きが付いている人のところへ同窓会報の名刺広告や寄付集めに走り回りました。

近藤／同窓会の役員会は最近の倍、20人くらいで開催していました。別に事務局会議も開いて活発でした。

髙橋／会員増は当初からの課題です。60歳になったであろうOBに「60歳の手紙」を毎年2百から3百通を出したこともありますが、戻って来るのは数通でした。

最近では「メールマガジン」も発行し「野球部の応援に行きませんか」とお誘いしたり、近郊への旅の企画の紹介もしています。

また、学生への支援として経済学部同窓会などと協力して「就職セミナー」を開催してきました。現役学生が様ざまな職種や会社で奮闘している先輩たちから直接に話が聞ける機会として好評です。今年度は社会学部が中心になり準備のため、企画内容などの工夫を役員会では考えています。

★同窓会報の内容については？

髙橋／「社会学部同窓会報」は年2回の発行を続けています。感想をいただければありがたいです。

金山／最近の号は変わったなという印象で、さらに良くなったと思います。

近藤／確かに良くなった。同窓会初期の頃はあまり経験がない者ばかりで、苦労して作っていました。

第45号の2代目会長の森田忠男氏のロングインタビューは特に良かった。

北條氏

北條／現役生を載せるようになってきたのは良いことで、取材は大変でしょうが続けて欲しいと思います。

近藤／紙面で、会員からの投稿「東西南北」が減ってきているようですが、はがきに書いて送るのは、年賀状もそうですが、出しにくいのではないかな。

髙橋／若い世代の会員のことを考えると、eメールなども必要だと思っています。会報は同窓会の繋がりを増やす、広げるためにも大切なグッズとして位置付けたいと考えています。

近藤／事業案内として東京の名所案内やOB経営のお店などの紹介も期待したいところです。

また、繋がりを広げて会員を増やすという点では、大学の校友会の中に社会出身で各地域においてリーダーシップを発揮している人がいるので、具体的にあたってみてはどうだろうか。

★「同窓会」の役割など

髙橋／社会学部以外の各学部同窓会も、高齢化や新たな会員が増えていない問題を抱えており、同窓会の役割は何か、会長としてもいろいろと悩んでいます。

ただ、大学の校友会ができてから5年が経過したので、各学部同窓会に入っても良くなったことで、新たな局面が期待できるのでは…。

近藤／総会に出ても、役員同士でも世代が離れており、知らない人が多いのが現実です。

ゼミなどの繋がりを各人が持っていても、同窓会全体では関係が希薄ですね。

以前の「土曜セミナー」で顔見知りができた経験から、関心あるテーマを工夫した勉強会が開かれておらず、知り合う機会がないことが問題だと思います。

髙橋／最近、様ざまな企画での参加者集めは大変で、同窓会で学部長3代のセミナーを3回開いたものの、声かけした金山ゼミしか来なかったということもありました。自己満足的に終わらずに、参加したくなるような宣伝や参加確認もセットで進めること無しではダメだと感じます。

金山先生には「同窓会を大切にしろ」と言われてきました。

★今後の、同窓会やご自身の「課題」は？

髙橋／同窓会の継続や発展へ向け、先輩OBとしての注文や期待、またご自身の計画など、ぜひ一言でも。

近藤／私は「同窓会のOB会」をあらためて作って、社会学の勉強会をやりたいです。

北條／絵画の集まりでは毎回20人は参加しています。それぞれの仕事上の体験話はとても参考になるため、集まるのが楽しみです。そして他に派生して新しいグループもできるのです。だから、参加したくなって「細胞分裂」していく体制を作れば組織は広がるものだと思いますね。

金山／同窓会、特に大学は難しい。先生によっては「（卒業後に）群れるな」と教える人もいます。私は「群れろ」派ですが(笑)。卒業後は様ざまな進路があり、多様性に富んだところでどのように運営していくのかという課題があります。

ところで、最近の学生は校歌を歌えないそうですが、時代が違ってきている中での大学への帰属意識の問題を踏まえて、「群れた方が良い」という雰囲気をどう作るか、腕の見せ所でしょう。特にロートル（中国語で年寄りの意味）OBの知恵を活用したいものです。

髙橋会長

髙橋／最近、会報発行に慣れた役員が複数になるなど、役員会の機動力も出てきました。交通費はほとんど自前という弱点はあるものの、同窓会の活性化へ足取りを進めますので、今後ともお力をお貸し下さい。

★座談会を終えて

座談会後の喉をうるおしながらの懇談では、卒業後の各位の足取りや健康問題にも話が及びました。同窓会には多彩な顔ぶれがあることから、消息などを交流することはもちろん、趣味の個展や展示会の拡散、健康問題の体験レポートなども役に立つのではないか、「得する情報」を会報や会のホームページ、メールマガジンなどでとりあげようと髙橋会長へ注文がありました。　（Y）

学生インタビュー

今年8月からメキシコで勉強します！

田所　真理子ジェイ　さん

社会学科4年・増田　正人ゼミ

田所　真理子ジェイさん
（社会学部棟と現代福祉学部棟の間の芝生広場で）

留学生交流サークル「FiTus」代表

前号では留学生の皆さんに法政大学社会学部での学びと交流について語っていただきました。今号は、日本人側で留学生との交流に取り組む学生の代表をご紹介します。

（聞き手＝髙橋敏、吉川新吾）

――法政大学社会学部に入学した理由は？

通っていた県立神奈川総合高校では卒業論文のような課題があり、「幸せってなんだろう」というテーマに取り組んだのがきっかけです。フィリピンの祖母のところに行く途中、物乞いの子どもたちの姿を小さい頃からよく見てきました。自分とのあまりにも違う生活環境に衝撃を受けてきました。こうした問題を学べるのはどこの大学か、比較検討して法政の社会学部を選びました。相模原市内の自宅から近かったのも大きな理由ですね。

――入学してみてどうでしたか。

入学して最初の頃に社会学入門的なオムニバス形式の授業で、堀川三郎先生から「大学は何をするところか。ただ、話を聞くだけではなく、自ら発信していく場なんだ」と教えてもらいました。基礎ゼミ（クラス）は岡野内正先生でした。天気が良いときは先生が呼び掛けて野外で授業をします。とても新鮮でした。社会学部に入って良かった、と思いました。

――サークル活動について

1年生のときから「フィッタス（FiTus）」という留学生と日本人の交流サークルに参加しています。大学行事の国際交流フェアをお手伝いする学生グループが母体で、今年度から公認のサークルになりました。メンバーは約20人。今は私が代表を務めています。

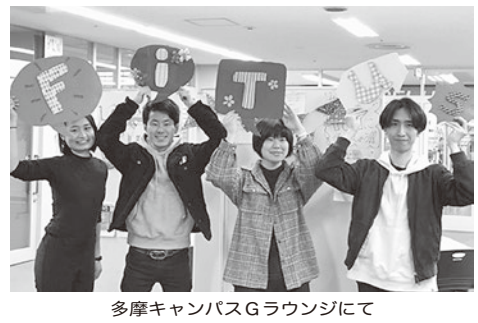
中国、韓国、台湾、ベトナム、インドネシアからの留学生と日本人が一緒に活動しています。様々な交流イベントを開催する一方、日本と韓国・中国の国同士の関係など本音で話ができるのは面白いです。これまでの学校で学んできたことや友だちとの付き合い方など違いに気づかされることもあります。

――就職活動は？

8月上旬から来年6月上旬まで、派遣留学生としてメキシコのグアダラハラ大学で勉強します。ラテンアメリカの貧困問題を考えるためにメキシコを選びました。孤児院でのボランティアや日系企業でのインターンシップ（就業体験）など、留学期間中の生活も具体化してきました。現地の人々の暮らしを間近に見ながら経済成長の一方、貧困問題が深刻なメキシコについて調べてみるつもりです。

――将来は

自分の経験を生かして他人の役に立つ人間になりたいと思います。就職先として頭に浮かぶのはJICA（独立行政法人国際協力機構）くらいですが……。増田先生にだけ話したことがある夢もあります。それは経験を一定積んだあとで海外の大学院に入り直し、ラテンアメリカの地域研究を専門とする大学教授になることです。



多摩キャンパスGラウンジにて
（2019年4月）

教授登場

グローバルに「働くひと」を追って
「大原社研」創立百周年にもご注目を

吉村　真子　教授

（「地域研究（アジア）」「開発とジェンダー」「国際社会論」担当）

研究テーマは「働くひと」です。大学院時代から東南アジアのマレーシアをフィールドとして、プランテーション労働者や女性工場労働者、移住（外国人）労働者、官庁、労働者を支援する労働組合やNGOsなど、さまざまな調査を行っています。拙書『マレーシアの経済発展と労働力構造』（法政大学出版局、98年）ではエスニシティ、ジェンダー、ナショナリティによるアジアの労働市場の分断を分析しました。また法政大学のグローバル化の一環として2015年のマラヤ大学との協定の橋渡しもさせていただきました。

現在、アジアにおけるジェンダーと市民社会に関する研究プロジェクトも実施。現地の女性団体協会やジェンダーNGOsのヒアリング調査、研究者や人権活動家との議論、現地の大学で講演なども行っています。

社会学部では「地域研究（アジア）」「開発とジェンダー」「国際社会論」の講義と基礎演習、アジア研究の専門演習を担当しています。1年次の基礎演習は、ゼミとは何かを学ぶことに加え、専門演習での研究の土台作り、大学での仲間作りや居場所としても、社会学部カリキュラムで重要な位置づけになっています。基礎演習・専門演習での議論の際の教員の声がけや助言で学生も大きく変わりますので、毎年、学生たちの成長を見るのが楽しみです。また社会学部の学生それぞれの社会問題や国際問題についての関心を伸ばし、学びにつなげていくことに教員として留意しています。学生たちには、キャンパスでの教員や学生同士の交流や議論に積極的に参加し、充実した4年間を過ごしてほしいと思っています。

また昨年10月、大原社会問題研究所・ILO駐日事務所主催の国際労働問題シンポジウム「持続可能な開発目標（SDGs）とディーセント・ワーク」で基調講演「アジアにおける開発と労働」も行いました。大原社研も創立100周年。毎年、国際労働問題シンポ（10月）やシネマフォーラム（12月）などもありますので、ぜひご参加ください。

世界中の「働くひと」に囲まれて
（前列中央が吉村教授）

南会津のきれいな星空を観たくなったら
のんびりブナの森を散歩したくなったら
ナチュラリストの活動拠点
自然に癒される宿
フィールドイン楓林舎
環境・自然・天文・野鳥関係書籍、図鑑等多数
代表　三野輪真明（社会学科1979年3月卒 金山ゼミOB）
〒967-0026　福島県南会津町（旧田島町）針生昼滝山857-27
TEL 0241-64-2535　URL：http://fuurinsha.eco.coocan.jp

全国規模の対応力でスピーディーに出張買取!!
古美術・骨董品・絵画・茶道具買取
その他ジャンルにこだわらず、お気軽にご相談ください。
遺品整理　荷物の整理　家の建替
LINE査定&無料査定
全国無料 出張買取
宅配買取・店頭持込・メール買取
えんや 社長 遠藤 大祐
● 査定士:遠藤大祐
● 法政二高、法政大学社会学部卒
● 法政二高 野球部OB
● 東京商工会議所会員
● 東京美術倶楽部　桃李会会員
● 東京美術倶楽部　親和会会員
● 全国美術商連合会会員
法政大学社会学部卒(土生ゼミOB)
美術品・骨董品買取専門店 えんや
0120-808-896
えんや　買取
LINE@ @enya.kaitori
渋谷区広尾3-4-1シャレール広尾1F

さようなら！55・58年館

校舎お別れイベント報告

市ケ谷キャンパス55・58年館の解体工事開始直前の2月23、24日、お別れイベント「55・58フェアウェルDays」が開催されました。53～58年にかけて竣工した一連の校舎群は、「日本有数のモダニズム建築」として高い評価を得てきただけでなく、法政大学のキャンパスを象徴する校舎であり、卒業生にとって思い出の場所でした。

（杉原　典男）

大盛況だった55・58Farewell Days（撮影　吉澤志保）

今回のイベントは、設計者の大江宏先生のご子息である大江新名誉教授を中心とした卒業生組織「きおくプロジェクト」と大学の協力の下、この建物への感謝の気持ちや継承すべき価値を確認する場として企画されました。また、明治大学、関西大学との三大学連携協力協定締結を記念する特別展示「ボアソナードとその教え子たち」や記念シンポジウムも併催され、卒業生だけでなく、大学や建築に関心をもつ多くの人が集うイベントとなりました。

当日は、設計者がこの校舎に込めたモダニズム精神と伝統について考える「大江宏と55・58年館」、大学の創立について考える「三大学創立の時代―私塾・結社・法律学校―」の2つのシンポジウムを中心に、卒業生や教職員、現役学生による写真や資料の展示、記録映画の上映、研究者によるレクチャー＆見学会、アーティストによる教室インスタレーション、そして懐かしい学食メニュー「バクバクランチ」の復活など、多くの企画が実施されました。また、記念冊子や校舎をデザインしたポストカードなども配られ、これも卒業生にとって良い記念になったようです。参加者は約3000人。終了時間近くになっても、校舎の姿をカメラに収め、名残を惜しむ姿が数多く見受けられました。

当日パンフレットに掲載された田中優子総長「ご挨拶」にこのような記述があります。

「大江宏先生は58年館竣工時の『設計要旨』に、『大学は象牙の塔ではなく、現実の社会を動かしていく原動力』であり、その力の源泉は、個々の教員の業績よりも、学生、教職員が立場を超えて交わるコミュニティにあるとしました。そして校舎は、そのコミュニティの容れ物であるとして、校舎の中央に学生が自由に使える学生ホールを置きました」――。

「コミュニティの容れ物としての校舎」という設計者の意図を尊重し、儀礼的にならず、様々な企画の中を参加者が自由に歩き思い出を語り合う、この校舎らしいお別れイベントでした。

生協食堂では懐かしのメニュー復活

「大内山校舎」完成　4月から使用開始

今春、市ケ谷キャンパスに新校舎「大内山校舎」完成、4月1日から使用開始になりました。16年8月に完成した「富士見ゲート」に続く新校舎で地上8階、地下1階。55・58年館の外装デザインも取り入れられました。1～3階に学生対応窓口、4階以上に中小教室が配置されています。最大の席数だった55年館1階「511教室」や学生ホールの南半分があった場所に建てられました。

今後55・58年館の解体が本格化します。その跡地にはキャンパス中央広場が整備され、2021年1月に全体工事が完了します。

多摩キャンパスの改善
バス代負担緩和や食堂改修

副学長・常務理事（社会学部教授）　増田　正人

みなさん、こんにちは。常務理事の増田です。4年間という理事の任期も半分が過ぎました。現在、中期経営計画の2年目ということで、法人運営の部門を中心に制度改革を進めています。

HOSEI2030の進行とともに大学に対する社会の見方も変わってきています。19年度の入試では、昨年の12万人からは受験者は減りましたが、実受験者数で大学のトップになりました。細かくデータを分析してみると、大学のブランディング活動だけでなく、入学センターをはじめ様々な部局の教職員の地道な努力が評価されてきたことがわかります。

今年は本格的な構造改革を進める年になります。大学を取り巻く環境は大きく変わり、高度な教育・研究を支える経費が増える一方で、収入増はあまり見込めない状況が続きます。それに対応した形で、法政大学を持続的に発展させていくための仕組みづくりを進めています。特に、人事制度改革を今年度進める予定です。

多摩キャンパスでは、昨年から導入した「学期定期券」が定着してきました。大学負担を大幅に増やすことで学生負担を緩和し、学生たちが日々大学に来て学び活動するキャンパスづくりが進んでいます。食堂問題については、生協食堂（6号館）の大幅な改修を行い、内装も一新してきれいな食堂として生まれ変わりました。また、外部から昼食の移動販売車をセンタープラザ脇に入れることにし、毎日違う業者が食事の提供をしています。施設についても、この4月からいくつかの点で大きく変わってきています。昨年末から始めた陸上競技場の改修工事も終わり、トラックも新しく生まれ変わりました。

これから残された2年間、しっかりと仕事を進めていきたいと考えています。

6月24日に「第6回定時代表議員会議」

校友会

一般社団法人法政大学校友会はホームページ上で2019年度三大イベントの日程を発表しています。

「第18回オール法政ゴルフ大会『総長杯』」＝9月2日（月）キングフィールズGC、「第27回全国卒業生の集い　徳島大会」＝11月15日（金）～17日（日）JRホテルクレメント徳島（大会式典・懇親会）、2020年「オール法政新年を祝う会」＝2020年1月26日（日）グランドニッコー東京　台場。社会学部同窓会は校友会パートナー組織として、これらのイベントの成功に協力していきます。

なお、校友会全体の運営について議論する「第6回定時代表議員会議」が6月24日（月）に行なわれます。14年3月以降、全学の卒業生が全員加入する校友会は財政規模も巨大です。卒業生の願いに応える適切な運営が行なわれているかどうか、確認し、必要があれば要望も出せる場です。ご意見がありましたら、お気軽にご連絡ください。

（中正美）

鈴木・大保会計事務所
公認会計士 税理士　鈴木　和男（旧姓和田）
事務所〒176-0012 東京都練馬区豊玉 5-7-4
TEL03-3993-2301　FAX.03-3392-8823
自宅〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 3-5-10 TEL048-421-5852
1954年3月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会
幹事　藤永　正順
自宅〒733-0815 広島市西区己斐上 3-3-28
TEL.082-272-5534
1957年3月卒　中島正ゼミ

TAK
TAKテナントビル業／マルカパーキング／パーラーあむ～る
代表取締役　加藤　照親
〒410-1127 静岡県裾野市平松 474 TEL.055-992-0052
E-mail：t-katoh@ksn.biglobe.ne.jp
1959年3月卒　笠原千鶴ゼミ

村串　仁三郎　法政大学名誉教授　著
『高度成長期日本の国立公園』
――自然保護と開発の激突を中心に――
（時潮社、3500円）
1959年3月卒　長谷川博ゼミⅡ部

法政大学社会学部同窓会
土屋　幸雄
自宅〒194-0203 東京都町田市図師町 2224-4
TEL・FAX.042-793-5550
1960年3月卒　長谷川博ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任顧問　中山　重臣
自宅〒242-0008 神奈川県大和市中央林間 4-29-14
TEL・FAX.046-275-3022
1961年3月卒　土生長穂ゼミ

すき焼き・しゃぶしゃぶ・フランス料理
創業明治5年 伝統の味と風情をご堪能下さい
吉（よし）　寅（とら）
吉崎　秀夫
埼玉県川越市元町 1-9-3（市役所通り）
TEL.049-222-0102
1961年3月卒　逸見重雄ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任理事　中村　一廣
自宅〒277-0086 千葉県柏市永楽台 3-8-3
1961年3月卒　増島宏ゼミ

東京・中野
近藤駐車場
近藤　栄一
駐車場：東京都中野区弥生町 1-19-9
〒：331-0063
自　宅：さいたま市西区プラザ42-15
E-mail：eiichi_k@d2.dion.ne.jp
1961年3月卒　笠原千鶴ゼミ

東西南北

会員の短信から

※卒業年は3月時点で記載しています。

【千葉県】

78年卒　笠原　邦丸

同窓会運営の労に感謝いたします。会報53号にて平野先生ご逝去を知りました。平野先生のゼミ2年間はとても刺激的でした。謹んでお悔やみ申し上げます。（平野秀秋ゼミ）

【東京都】

文京区

80年卒　保坂　正紀

須藤ゼミの卒業生で毎年2月と9月に新年会と納涼会を開いて親睦を図っています。（須藤春夫ゼミ）

渋谷区

57年卒　太田　昭郎

卒業して60年以上過ぎても法政大学卒業生・・・の意識をずーっと持っている。自宅が学校とは電車に乗れば近いし、野球やラグビーなど母校が出場するときは見物、応援もできる。東京・箱根間駅伝に出場となればドンジリに近いところで競っていても後輩が力走していて、胸のゼッケンと「H」マークがテレビいっぱいに。卒業生を実感するぞ！（村山重忠ゼミ）

豊島区

16年卒　岩井　佑樹

最近、首都圏青年ユニオンの取り組む争議で話題を呼んだのが、学生ユニオンによる小田急電鉄学生駅員バイトについてだ。ブラックバイトというものの内容が変化してきていることを感じる。学生駅員バイトだが、その重い責任は正規の駅員と変わらない。むしろ正規のやりたがらない仕事を学生バイトが肩代わりしていたりもする。ブラックバイトを無くしていくためにも学生ユニオンによる小田急電鉄の争議を支援していきたい。（鈴木宗徳ゼミ）

板橋区

93年中退　関　善文

16年末から父が胃がん、母が大腸がんに。父は昨年5月に死去。母は今も闘病中。2人そろっての抗がん剤治療は1年半に及び「介護離職」の危機が切実でした。医療・介護の拡充は待ったなし。身を以て痛感しています。（吉田傑俊ゼミ）

練馬区

77年卒　鶴田　尚士

金山ゼミ後輩の三野輪君の記事を読み、楽しく感じました。（金山行孝ゼミ）

練馬区

84年卒　植田　孝良

読書量が減っておりますが、いろいろ気になる本はチェックしています。清水幾太郎の『流言蜚語』は、岩波書店の古い本で、長らく品切れでしたが、ちくま学芸文庫から再版されました。気軽に手に入るのがうれしかったです。デマについて勉強するのに手頃な本と言えます。（稲増龍夫ゼミ）

小金井市

87年卒　森安　力

「大学生協九条の会」のよびかけ人として活動しています。日本国憲法は今、戦後最大の試練を迎えています。憲法の理念を伝える伝道師でもある伊藤真さんをお迎えして講演会を開催します。興味ある方はご参加下さい。『憲法』と『日本の今』を知り、未来に生かそう。～憲法改正案をめぐって～」。6月10日（月）午後7時から8時半、大学生協杉並会館・地下会議室、参加費千円（どなたでも参加できます）。主催は大学生協伊藤真講演会実行委員会。申し込み先 https://cooppeace.wixsite.com/itomakoto

（相田利雄ゼミ）

【神奈川県】

横浜市

84年卒　鈴木　康功

2月24日、「55・58フェアウェルDays」（55・58年館の最終講義）に参加すべく久しぶりに市ケ谷校舎へ。社会学科の同級生の友人M君、K君及びA君と参加しました。飯田橋駅近辺も変わりました。

まずは生協食堂で「懐かしの食堂メニュー復活」とのイベントで「教職カツカレー」をいただきました。500円とは思えない味とボリューム感。学生時代にはカツカレーは食べられなかったとK君の弁に納得。その後、多くのイベントを見学しました。特に大教室は懐かしかった。卒業以来35年ぶりの大教室の椅子の感覚に思わず感無量！そこには確かに法政大学時代の私が存在しておりました。あっという間に時間が経過し、最後の田中優子総長の挨拶から応援団によるデモンストレーション、そして（久しぶりの）校歌斉唱でフィナーレとなりました。

その後、飯田橋の居酒屋で友人4人にて懇親会。ちょっぴり飲み過ぎましたが、懐かしき「おおわが母校」に思いを馳せ、そして55・58年館に感謝しながら解散しました。「法政大学よ。永遠なれ！」

（秋田成就ゼミ）

横浜市

80年卒　永尾　哲也

法政大学ハノイオレンジ会で会長をしています。18年11月にはハノイで行われた「法政大学日本語スピーチコンテスト」でプレゼンテーターを務めさせていただきました。

（北川隆吉ゼミ）

川崎市

89年卒　後藤　真左美

「女性である前に人間であれ」という校風の法政女子高から社会学部へ進み「自由と進歩」のもと学びと友との語らいや交流の中で、自分がどのように生きていくか基礎を固めた高校・大学の7年間でした。多感なこの時期に広島の被爆者との出会いも平和を守っていきたいという私の原点になりました。25年間職場で勤めた後、一人一人の個人が大切にされる社会にしていきたいと政治の世界に飛び込んだのが5年前。そしてこの4月の川崎市議会選挙で初当選しました。これまでの経験を活かしながら、真心をもって市民のみなさまにお役に立てるようにがんばっていきたいと決意をしています。

（田沼肇ゼミ）

綾瀬市

88年卒　中島　謙

10連休のある日、観光地になってるお寺の仏像に熱心に祈りをささげる仏教国から来た妻の姿を見て、国際的ダイバーシティの現実の重量を改めて実感。日本社会の受入準備に懸念を禁じ得ず。（田沼肇ゼミ）

【香川県】

高松市

70年卒　十河　由憲

応用経済学科E組クラスの同窓会を18年9月16日、飯田橋の「北海道」にて30人くらいで行いました。幹事はY氏とI氏。福岡県より司法書士のI氏（県議会議員）、香川県より私が出席しました。全国大会（同窓会）は10回くらい開きました。（中島正ゼミ）

【佐賀県】

武雄市

57年卒　野田　剛

同窓会報を楽しみにしております。母校の4年間は私が歩み続けた人生の中で大きな存在と糧です。感謝しております。湯川新先生の記事がありました。私、昭和28年（53年）当時、麻布校舎での一年次に先生の父上である湯川和夫先生に「社会学原論」を教わったことなど回想し、年のせいか胸に迫りくるものがありました。（栢野晴夫ゼミ）

追悼　平野秀秋先生

平野先生とは何者だったのか

桑原　政昭　76年卒、平野　秀秋ゼミ

「過日お会いして以来文通など何も致さず…」という書き出しのお手紙を18年11月5日の消印でいただいていました。後に大動脈瘤破裂で亡くなったのは11月16日と伺い、唖然としたものです。亡くなる直前までお元気で、テニスに出かけたり、電気自動車の購入も考えていらしたなど側聞するにつれ、なんとも言えない思いにとらわれます。

改めて先生に関する文献も一人の学者の作業とは思えないほど、多種多様なジャンルに広がっています。

そういえば「（自分を）どんどん何者かわからなくするんだ」というお話を、学生時代伺ったことがあります。今思うに、先生は洒脱な知の冒険者だったのでしょう。

※次のアドレスで平野先生出演のCM（84年？）が見られます。ご覧下さい。https://www.youtube.com/watch?v=5gIL5ZGKiB0

平野先生の還暦を祝う会（1993年）

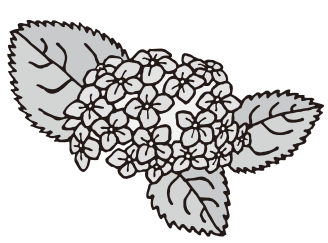
新正会員の紹介（受付期間　18年11月～19年4月）

安間　彩夏（18年卒）
三品　勇人（19年卒）
川上　沙耶加（19年卒）
鳴川　宗志（19年卒）
藤田　真輝（19年卒）

法政大学社会学部同窓会
幹事 山田 道生
〒017-0803　秋田県大館市東台2-1-64
TEL・FAX. 0186-43-2980
1963年3月卒　笠原千鶴ゼミ

法政大学社会学部同窓会
常任理事 濵名　達
自宅〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町平井988
TEL・FAX. 042-597-0135
1965年3月卒　北川隆吉ゼミ

法政大学社会学部同窓会
理事 塩田 利明
〒347-0012　埼玉県加須市多門寺1153
TEL　0480-68-5118
1967年3月卒　土生長穂ゼミ



社会学部同窓会報に名刺広告を出しませんか？

広告料金は一枠5,000円（税込み）です。

所属・職名、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、3月時点卒業年、出身ゼミ一言メッセージをお知らせください。

※配置は原則として卒業年順です。会報編集委員会にお任せください。
※お申し込みは同窓会事務局まで。

シャカイ人 OB・OG

東日本大震災が人生の転機
地元 所沢に貢献する会社を立ち上げ

C―プロジェクト
代表取締役

山下 勝也さん

応用経済学科
82年3月卒

大学時代、昼間はプールの監視員、夜は雀荘のスタッフといった感じで、アルバイトに明け暮れていました。そのため、4年時には就職活動をしながら卒業に必要な単位を40単位も取るというハードな1年を過ごしました。（笑）

生まれ育ったのは埼玉県所沢です。土地柄もあり、「西武」という会社に就職したいと考えていました。流通への興味から西武百貨店に応募し、就職することができました。西武ライオンズが初めて優勝した時で、さまざまな面で西武が注目されていた頃です。

入社してすぐ書籍部に配属され、池袋で書籍売り場（現：リブロ）を担当しました。その後、旧セゾングループで人材サービス会社を設立することとなり、そちらに参加させてもらいました。人材派遣、人材紹介の企画、営業、経理などの業務に携わり、それからの25年間は、さまざまな仕事と人をつなぐ役割を担ってきました。

新たなことに興味を持ち、とことんのめり込んで「遊ぶ」といった仕事ぶりでした。

転機となったのは、2011年3月の東日本大震災です。50代前半になり、5年後、10年後を見通したときに、このままサラリーマンとしての仕事を続けるよりも、地元所沢に戻り、所沢を見つめ直しながら、人と人をつないで何かを生み出す仕事をしたいと考えるようになりました。

退職後、現在は、株式会社C―プロジェクトの代表として、所沢のポータルサイト「ところなび」の運営や、「ところざわ学生映画祭」など映画祭の企画・運営、また、法政のキャリアデザイン学部・児美川孝一郎教授とともに若者を支援することを目的とした「キャリア教育イベント」などの企画・運営を行っています。

故郷所沢に隠れている魅力や眠っている魅力を引き出すこと。お店だけでなく、地域で頑張っている人たちや地域の魅力をも引き出していきたいと考え、日々動き続けています。

私論公論

「月に1回ゴルフに行っていますか」

若森 剛（87年卒・中林賢二郎ゼミ）

若森剛といいます。旧姓は八戸でした。今年59歳となり、いよいよ退職が目前となりました。長く病院の事務職として保健行政にかかわり、患者の皆さんの療養生活を運動面から支え、社会保障制度の改善に取り組んできました。いよいよ退職を迎えるにあたり国民健康保険の被保険者に移ることとなります。

調べてみると30数年にわたり働き、いよいよ支える側から支えられる側に移るのかと思っていたら、この制度の落とし穴にはまってしまいました。お気づきの方も多いと思いますが、退職を契機に病気になり病院とのお付き合いが始まる方が普通です。しかし、私が負担する自治体国保の保険料が3年にわたり引き上げられ、三多摩でも最も高い保険料となっていました。収入は下がるのに保険料負担は上がる、しかも、退職後1年は前年度の収入が加味されるのでかなり高い保険料となっています。昔で言えば還暦、第二の人生のスタートにこんな高いハードル待ち構えているとは。

「自立自助」とはそもそも高い収入のある方を対象に限定されています。ここ数年、国民健康保険をめぐる環境は大きく変わろうとしています。さらなる保険料の改定が各自治体で一斉に計画されているからです。いよいよ自治体の知事の方々も制度上の構造的な問題に着目せざるを得ません。公費を投入して、国民健康保険料を下げることを提言しています。

多くの現役世代の方々、特に国保は関係のないと思っている方は、退職後の生活にイメージする必要があるのではないでしょうか。ぜひ、まわりの先輩の皆さんにお聞きください。「月に1回ゴルフに行っていますか」と。

随想 生涯現役を目指してマイペースで走り続けたい

赤池 慎一　86年卒、田中義久ゼミ

2年半ほど前からランニングを始めた。友人たちが多く参加する市内のマラソン大会に申し込み、5キロの部に出場した。大学を卒業してからは運動らしい運動をしてこなかった。大会前もほとんど練習せず、途中で歩いたりしながら、制限時間の45分以内にゴールした。ちゃんと走ったのは社会学部の体育以来だから、約35年ぶりだった。

「人生百年時代」。子どもの世話になるのではなく、生涯現役として社会に関わりたい。漠然と思っていたが、それが夢物語でしかない己の現実を味わった。

少しずつ、近所の公園を走るようになった。学校の授業では苦しいという思いが強かったランニングだが、マイペースで何日か一人で走っていると、意外にも楽しさを感じられるペースがあるとわかるようになった。5キロを越えるあたりからは呼吸が楽になるようにも感じた。

走ることの楽しさに気づくと、レースに出てみたくなった。人と争うのではなく、目標タイムとのたたかい。50代になっても、少しずつ自己記録を更新でき、走る楽しさをさらに味わうこととなった。

ランニングを始めたのは、実家で一人暮らしの親父が、認知症の診断を受けた頃と重なる。認知症の対策には、脳の血流を改善する必要があると聞く。血流改善が期待できるから、水分を多く摂ることも勧められる。ランニングは毛細血管を再生させ、発達させる効果も期待できるそうだ。

走ることの楽しさを味わいながら、生涯現役を目指し、マイペースで走り続けたいと思う。

【訃報】

ご遺族の方から次の会員のご逝去のご連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

吉田　信八（63年卒）
18年9月ご逝去

学校法人中央学園
中央福祉医療専門学校
理事長 校長 宮杉 早苗江
本部〒323-0022 栃木県小山市駅東通り 2-24-28
TEL.0285-24-1571　FAX.0285-24-2522
E-mail：msanae@peach.ocn.ne.jp
http://www.chuo-fukushiiryou.ac.jp
1970年3月卒　田沼肇ゼミ

法政大学評議員
ミサワホーム株式会社
取締役会長 竹中 宣雄
〒163-0833 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
TEL03-3345-1111（代）
1972年3月卒 中野ゼミ

株式会社 コロンバン
代表取締役 社長 小澤 俊文
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-31-19
TEL.03-3409-2301（代）
1975年3月卒　庄司興吉ゼミ

人材形成研究所代表
結婚相談所３愛ネットクラブ
東京法政ライオンズクラブ 前会長
法政大学社会学部同窓会
常任理事 水上 久忠
携帯 090-4077-1223　自宅 TEL・FAX.03-3787-3476
2002年9月卒　法政大学大学院社会科学研究科経営学専攻
1970年3月卒　高橋精之ゼミ

NPOサポートセンター理事長
法政大学名誉教授
法政大学社会学部同窓会
副会長 山岸 秀雄
携帯090-1461-1525
〒249-0002 神奈川県逗子市山の根 2－8－11
hideoyamagishi7@gmail.com
1969年3月卒　佐藤毅ゼミ

新たな一歩へ
30th Anniversary
法政大学社会学部同窓会

ニュース　あらかると

箱根駅伝応援＆新年会

１月３日、品川駅前で恒例の箱根駅伝応援＆新年会を行いました。今年の「第95回東京箱根間往復大学駅伝競走（通称：箱根駅伝）」の結果は総合６位、シード権獲得。来年１月３日も、品川駅前で応援する予定です。

インターネットのライブ中継を見ながら法政大学の選手が通過するのを待ち、声援を送りました。

応援の後は、品川プリンスホテルで新年会

卒業祝賀会

３月24日、市ケ谷キャンパス　外濠校舎の薩埵（さった）ホールにて、社会学部主催の卒業祝賀会が開かれました。社会学部同窓会も参加し、優秀卒業論文を表彰。後輩たちの門出にエールを送りました。

会場の様子

優秀学生を表彰する中事務局長

会員拡大と30周年総会成功へ結束
教授会執行部と定例懇談会

社会学部同窓会は４月15日、教授会執行部との定例懇談会を行いました。同窓会正会員の獲得と、社会学部同窓会創立30周年記念総会の成功に向けた意見交換と意思統一が主な内容でした。

正会員の獲得については、藤田学部長が「まだ全面的協力に至っていないと自覚している。６月の総会に向けて教授会でもう一度、協力を呼びかける」と表明しました。高橋会長は「役員体制は代替わりできたので、若い層の正会員をもっと増やしたい」と述べました。

総会については、社会学部を06年３月に卒業した「いきものがかり」の山下穂尊さんをゲストに迎えるので、若い世代の結集、正会員を増やす絶好のチャンスという認識で一致。双方で宣伝に力を入れていくことを確認しました。「社会学部は市ケ谷で32年、多摩で35年。卒業生数は半々になったので、多摩世代を意識した活動が今後いっそう重要」（大﨑先生）という指摘もありました。

今年度は社会学部同窓会が中心となり開催する就活セミナーについては、「ラウンドテーブル形式で本音を引き出したい。参加した学生との双方向対話を主体に」（大﨑先生）、「就職の成功に限定せず、様々な地域活動に取り組んでいる人やユニークな職業に就いている人を紹介してはどうか」（藤田先生）など、キャリアセンター（就職部の現在の名称）の就職支援事業との差別化の必要を指摘する意見が先生方から相次ぎました。

今回の懇談会には、教授会執行部から藤田真文学部長、大﨑雄二教授会主任、土橋臣吾准教授会副主任、新任の越部清美教授会副主任。同窓会側からは髙橋敏会長、中正美副会長、赤池慎一副会長、吉川新吾会報編集担当が出席しました。（吉川新吾）

教授会執行部との懇談会で要望し実現した社会学部同窓会掲示板
（社会学部Ａ棟のゼミ掲示板の隣）

社会学部卒業生をつなぐメールマガジン！
今すぐ登録を。友人にも広げましょう！

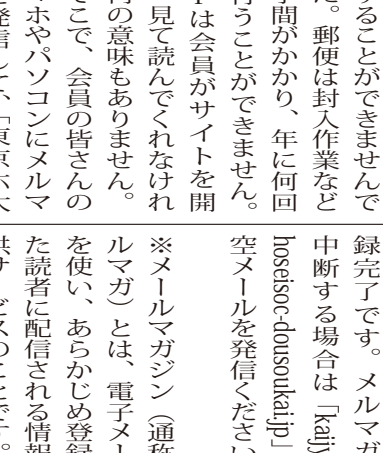
社会学部同窓会の「メールマガジン」が始まって約半年が経ちました。ただいまの登録は60人です（５月12日現在）。伝えたい情報を即座に正確に伝え、情報の共有化を図るためにメルマガを始めました。迷惑にならぬよう、回数は最少にして、必要な情報を適宜提供できるものにします。

これまで、同窓会員への情報提供手段は、年２回の会報、郵便、ホームページ（ＨＰ）が主なものでした。会報は半年に１回の情報提供なので、最新の情報を提供することができませんでした。郵便は封入作業などの手間がかかり、年に何回も行うことができません。ＨＰは会員がサイトを開き、見て読んでくれなければ何の意味もありません。

そこで、会員の皆さんのスマホやパソコンにメルマガを発信して、「東京六大学野球の優勝がかかる一戦を今週土曜日、神宮球場で応援しよう」、「校友会主催法政大学全国卒業生の集いへの参加は、来週月曜日が締切です」というような情報を流します。

まずはスマホで「法政大学社会学部同窓会」http://www.hoseisoc-dousoukai.jp/をご覧ください。メール登録ページから空メールを発信すれば登録完了です。メルマガを中断する場合は「kaijyo@hoseisoc-dousoukai.jp」へ空メールを発信ください。

※メールマガジン（通称メルマガ）とは、電子メールを使い、あらかじめ登録した読者に配信される情報提供サービスのことです。



法政大学社会学部同窓会
副会長　中　正美
TEL.090-8586-1242
E-mail:qqkt5de9k@mocha.ocn.ne.jp
1975年卒

法政大学社会学部同窓会
会長　髙橋　敏
TEL.090-1802-2908
E-mail:binta2908@ezweb.ne.jp
1978年３月卒　金山行孝ゼミ

☆憲法９条改憲NO!
☆法政大学Ⅱ部９条の会　世話人
司法書士・行政書士　木村事務所
司法書士　木村　誠
〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-7 翔和多町ビル２階
TEL03-3256-7058　FAX.03-3251-2205
E-mail：cau30510@pop21.odn.ne.jp
1977年３月卒　土生長穂ゼミ

法政大学社会学部同窓会
副会長　赤池　慎一
携帯　090-5585-1049
akaike@mri.biglobe.ne.jp
1986年３月卒　田中義久ゼミ

55/58　きおくプロジェクト
日本ジャーナリスト会議　会員
吉川 新吾
E-mail：shingo-y@festa.ocn.ne.jp
1987年３月卒　田中義久ゼミ

特定非営利活動法人（NPO法人）教育サポートセンターNIRE
代表
特別支援教育士（S.E.N.S）
中塚 史行
〒142-0053　東京都品川区中延５－６－14第一亀田ビル２Ｆ
TEL/FAX　03-3784-0450　メール　info@npo-nire.org
1995年３月卒　土生長穂ゼミ／法政大学社会学部同窓会理事

『外濠の青春』10冊、寄贈ありがとうございました。

67年、大学院社会学専攻修士課程修了（田沼肇ゼミ）の三階泰子さんから、三階さんが寺脇洋子さん（文学部63年卒）とまとめた『外濠の青春―法大「マル研」と安保闘争の仲間たち』（桐書房、2014年）を10冊、社会学部同窓会に寄贈いただきました。ありがとうございました。現在の社会学部にも、社会運動や市民運動を学んでいるゼミがあります。「今をどう生きるか」仲間たちと語り合いながら、理想の政治や社会のあり方を求めて行動した先輩たちの学生時代の姿を在校生に紹介したいと思います。先生方にも相談しながら有効活用させていただきます。（髙橋敏、吉川新吾）

校友会「13年度同期会」解散に伴うパートナー組織選び「社会学部同窓会」は１人獲得

一般社団法人法政大学校友会は14年４月、大学公認の卒業生組織として生まれました。14年３月卒から毎年、全卒業生が自動加入、卒業後５年間の期間限定の組織「年度同期会」に所属するという仕組みです（13年３月卒以前の卒業生は任意加入）。この校友会第１期の年度同期会（14年３月卒＝13年度同期会）が３月末に解散し、当該の校友会員は、自由意志により地域・職域・学部・付属校・スポーツ・文化など、さまざまなパートナー組織への所属変更を行うことになりました。所属変更しない場合は、校友会「個人会員」となります。

社会学部同窓会では、正会員拡大の絶好のチャンスと考え、「校友会の所属パートナー組織は社会学部同窓会を選択しましょう」と呼びかけてきましたが、19年４月現在、対象となる14年３月卒業生6085人（全学部）のうち、社会学部同窓会を選んだ人は１人にとどまりました。

校友会では4491人にパートナー組織の所属変更を促す案内を送付しましたが、返信はがき到着は52件だったそうです。社会学部同窓会では正会員の高齢化と減少の克服を喫緊の課題とし、同期会解散に伴う新たな正会員の獲得を期待しましたが、初年度は空振りに終わりました。

在校生や若い世代の卒業生の間での認知度向上に努力し、社会学部教授会と連携して正会員獲得に一層力を入れる考えです。

（中　正美）

○校友会「年度同期会」は毎年解散します。卒業から５年の後輩たちに、
○「社会学部同窓会」への所属変更を呼びかけていきましょう！！

寄付者ご芳名

18年11月～19年4月末（敬称略）

皆様から寄せられましたご厚志を心から感謝いたします。会の貴重な運営費として活用させていただきます。

100口　新村　武彦
10口　笠原　邦丸
　　杉本　昇
　　藤田　慎介
7口　安井　洸治
5口　鈴木　和男
　　藤永　正順
4口　日向　不二
3口　久保田　和幸
2口　尾崎　孝・覚
　　植田　孝良
　　太田　昭郎
　　伊藤　雅史
　　鈴木　光枝
　　近藤　栄一
　　田南　一郎
　　上野　英明
　　河村　勝弘
　　風見　久夫
1口　吉村　征郎

30th Anniversary 社会学部同窓会 創立30周年記念総会のご案内

おかげさまで30年
母校を愛する
あなたに会いたい！

社会学同窓会は創立30周年を迎え、６月の定期総会で記念総会を開催します。当日は、数々のヒット曲を生み出している音楽グループ〝いきものがかり〟メンバー山下穂尊氏（06年３月社会学部社会学科卒業）を迎え、藤田真文社会学部長との対談を通して、法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」について語っていただく予定です。

皆様のご協力を仰ぎ、30年の節目、令和元年を出発点として新たな一歩を踏み出す記念の会にしたいと考えています。どうぞお誘い合わせの上ご参加ください。そして平成時代と共に歩んだ同窓会の30年を振り返り、互いの健闘を称え、祝い、次の時代への新たな一歩を誓い合う会としましょう。

【日程】
期日　2019年6月8日（土）
計画
10：00～11：30　おじさん・おばさん卒業生は知らない市ケ谷周辺「校舎お散歩会」
13：00～13：30　2019年度定期総会
13：30～15：00　記念対談　自由を生き抜く“社会学部”の実践知
山下　穂尊　氏
（いきものがかりメンバー）
藤田　真文　先生
（法政大学社会学部学部長）
15：10～17：00　懇親会

【各会場】
○校舎お散歩会：市ケ谷ゲート棟下階段（正門）に午前10時集合
○定期総会・記念対談：ゲート棟4階Ｇ401教室
○懇親会：ボアソナード・タワー25階「スタッフクラブ」

【参加申込】
○卒業生懇親会参加費6,000円
（社会学部学生は事前申し込みで無料、但し定員になり次第受付終了）
○申込みは社会学部同窓会事務局へ

記念総会の会場、市ヶ谷キャンパス「富士見ゲート」

30th に際し、会費納入の確認を！

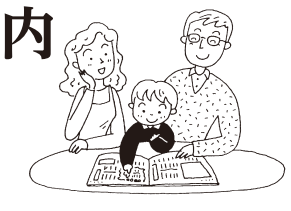
◇正会員の高齢化に伴い、年会費（3000円）納入が減っています。財源が逼迫した状況にあり、学生支援にも支障が生まれる状況です。
◇毎年忘れずに会費の納入をお願いします。
◇30th 寄付金（一口3000円）もお願いしています。
※長年会費納入が滞っている方、今期から納入を再開ください。

交流企画の企画＆運営スタッフも募集中です。
スポーツ観戦、大人のグルメ、癒し旅、「社会と人間セミナー」…
お気軽にご連絡ください。

法政大学社会学部同窓会
shagaku_dousoukai@yahoo.co.jp

同じ学び舎で過ごした仲間たちに、情報発信しませんか。
（お店や著書の紹介、各種営業案内も OK ！）

社会学部同窓会報 広告のご案内



◇媒体名：法政大学社会学部同窓会報
◇発行日：６月１日、１月１日(年２回発行)
◇体裁：モノクロ　タブロイド判　全８ページ
◇発行部数：2500部
◇配布先：社会学部同窓会会員、社会学部教職員、社会学部教職員 OB・OG、社会学部棟、市ケ谷図書館、多摩図書館、校友会関係者、他学部同窓会関係者
◇お申し込みは、社会学部同窓会会員、法政大学関係者に限らせていただきます。
※発行日の２か月前までにお申し込みください。
◇原稿製作・入稿については別途ご連絡させていただきます。

＜広告料＞第２面、第７面、第８面
(大)天地100mm ×左右240mm　40,000円(税込み)
(小)天地100mm ×左右120mm　20,000円(税込み)
(名刺広告)　一枠5,000円(税込み)
※製作は会報編集委員会にお任せください。
所属・職名、氏名、住所、電話番号、メールアドレス、３月時点卒業年、出身ゼミ名、一言メッセージ

本会は日本国憲法が保障した言論・思想信条の自由を尊重し活動していますが、理事会及び会報委員会の判断により掲載をお断りする場合もあります。あらかじめご了承ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
〒194-0298 東京都町田市相原町4342　☎･FAX：042-783-2421(社会学部同窓会 事務局)
メール：shingo-y@festa.ocn.ne.jp(会報委員会　吉川新吾)

キーワードで振り返る 社会学部同窓会の30年

「人間は歴史をつくる。」。社会科学の古典の有名な言葉です。歴史は好き勝手につくれるものではありません。「思うままにではない、与えられ、持ち越されてきた環境のもとで」つくるのです。法政大学社会学部も、社会学部同窓会もそうでした。30年の節目の時を迎えて、いくつかの重要なキーワードを通して、その歩みの意味をかみしめたいと思います。（吉川新吾）

法政大学社会学部

法政大学社会学部は、法学部や経済学部のように戦前から法政大学にあった学部ではありません。学校法人・中央労働学園社会学部を吸収合併し、52年に新設された学部でした。中央労働学園の母体は、1919年設立の財団法人・協調会です。同じ年に、大原社会問題研究所が誕生しています。

▼大原社研は百周年

49年に法政大学に属することになった大原社研は今年で百周年。法政大学社会学部も前史のおおもとから数えると百周年ということになります。（高橋彦博『協調会から中央労働学園へ・法政大学社会学部の前史』、2003年発行の『社会志林』所収）

麻布校舎

法政大学社会学部の最初の校舎は港区麻布新堀町にありました。「東京駅丸の内南口の都電を三ノ橋の電停で下車して右手、蕎麦屋の角の路地を入ってほどなく左側」と、金山行孝名誉教授は説明します（『法政大学社会学部50年誌』）。

鉄筋コンクリート4階建ての校舎を工学部と分け合って使っていました。

▼麻布校舎と55年お別れ

55年3月に麻布お別れの集いを開いた後、同年4月、3・4年生は市ケ谷に、1・2年生は木月（川崎市）に移転しました。

麻布お別れの集い（1955年3月）

多摩移転

現在の法政大学は、市ケ谷、多摩、小金井の3校地で構成されていますが、多摩への全学移転が構想されていた時期がありました。狭小なキャンパス問題を解決するため、東京都町田市の広大な土地を確保し、75年6月の第一声明「町田校地開発について」から約10年後の84年4月、経済学部と社会学部が1年次から移転し、多摩キャンパスが誕生しました。

その後、紆余曲折を経て、市ケ谷再開発を進めることになり、全学移転から部分移転に大学の方針が変わりました。

社会学部A棟（高層棟）とB棟

社会学部棟

多摩キャンパスでは市ケ谷キャンパスにはなかった学部棟が実現しました。社会学部では多摩移転を施設環境面の改善とだけとらえず、責任を負える教育体制としての「学部一貫教育・縦割り構想」を持っていました。大学教育の導入として全学部生必修の「基礎演習（基礎ゼミ）」が1年次に設置され、学習意欲の喚起に大いに役立ちました。

「社会学部における学部改革問題――討議資料集約」（81～84年、全4号）は、多摩移転の意義を積極的にとらえ、新しい大学を自分たちの手で創造しようと行動した社会学部の先生方の熱い思いが伝わってくる資料です。

社会学部35周年の集い

多摩キャンパスができて3年目、86年3月30日に「社会学部創立35周年」のパーティーが開かれました。この懇親の場で先生と職員の横山喬さん・大野喜美さん・大矢常吉さんで何人かが発起人となり「同窓会をつくろう」というアピールを出しました。呼びかけ人は斉藤博孝教授、職員の横山喬さん・大野喜美さん・大矢常吉さんでした。パーティーに出席した約200人の中から88人が集まりました（『社会学部同窓会会報』創刊号、89年9月15日）。

その後、4年の準備期間を経て、89年3月25日に社会学部同窓会結成総会が開かれました（創立時の会員数は98人）。

設立の背景には校友会のあり方への違和感の共有もありました。88年2月の法政大学川崎第二グラウンドの川崎市への売却に先立って、卒業生理事・幹事の一部が建設会社から工作資金を受け取っていた不祥事が89年11月に毎日新聞、90年3月に朝日新聞で大きく報道され、設立当初の社会学部同窓会では卒業生組織の健全化が関心事となっていました。

（当時の校友会は、現在の「一般社団法人法政大学校友会」とは別組織です）

社会学部同窓会報　創刊号（89年9月）

社会学部同窓会報

社会学部同窓会の活動を伝え、卒業生同士の交流を促進するため、89年9月15日に創刊号が発行されました。創刊号の第一面は、女優の星野知子さん（80年卒、金山行孝ゼミ）と中野収教授の対談でした。

96年11月15日の第10号以降は年2回の発行になりました。第10号では、「中央労働学園設立五〇周年・社会学部の前史を語る」と題し、中央労働学園大学の事務局員をされていた鳥居俊夫さん、若林章雄さんへのインタビューが掲載されました。

この頃の会報には、麻布時代に端を発する先生方と卒業生の結束力の強さを感じます。今日的なテーマを勉強する「土曜セミナー」が定期的に開かれていました。

編集後記

今号から赤池さん、山田さん、私の3人デスク体制に。さらに良い紙面をめざし頑張ります。（吾）

原稿、言葉は生きものです。紙面に登場される皆さまの気持ちを正確に伝えることを志がけます。（山）

一般社団法人 法政大学校友会

終身会員募集中！（終身会員 30,000円）　詳しくはお問い合わせ下さい。

http://www.hoseinet.jp　法政大学校友会　検索

会　長　佐々木郁夫
副会長　豊田信哉　小林清宣　石塚　護　田﨑　稔
監事　矢部豊　山寄正俊　発地敏彦　松井哲也

事務局　〒102-0073　東京都千代田区九段北3-2-3　九段校舎4階
TEL 03-3264-1831　FAX 03-3264-4770　E-Mail：jimukyoku@hoseinet.or.jp